



業 績	活動指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	復旧箇所数	箇所	目標	—	—	—	—
			実績	2	0	2	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H23	H24	H25	H26
復旧箇所数	箇所	目標	—	—	—	—	
		実績	2	0	2		
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	台風や近年多発しているゲリラ豪雨等、不測の事態に対し迅速に対応できる体制整備を整えており、平成25年7月25日の集中豪雨の被害時には、準用河川小針川また、平成25年9月16日の台風18号の被害時には、準用河川道木川の災害発生の一報を受け、現地を直ちに確認し早期機能回復を実施することができた。				
		事業実施における課題	近年のゲリラ豪雨と呼ばれる集中豪雨の大型化、また多発化により、被害の拡大が想定されるが、天災である事から、その発生は不確定である。そのため予算、人員等の備えが定まらず、その適正な確保が困難となってきている。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	災害復旧に対応するものであるため事業廃止・休止はできない。被害に対する機能回復を迅速に行わないと、市民の日常生活に支障をきたし、また二次被害、三次被害への大きな要因へとつながることとなる。				
		平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	H24年度末に土砂災害警戒区域が追加指定され、市内におけるさらなる危険箇所を認識することとなったが、この危険箇所の見廻り点検体制を整えることで迅速な対応をおこなうこととしている。			
		平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
		判定理由	対応体制の維持については現在のところ適正に継続されており、また発生被害に対し遅延なく機能回復を実施するための備えができていることから、現状維持と判断した。				
		27年度以降の改善案	被害の状況に応じて、仮設的な簡易構造で復旧するなど、効率的な実施を図らなければならない。 また、東海地震等も懸念されるなか、不測の事態に対し迅速に対応できる体制を維持していく。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。